

令和3年度 研究について

金沢大学人間社会学域学校教育学類
附属特別支援学校

はじめに

これまでの教育・研究活動から明らかになってきた本校児童生徒の教育課題の解決と、特別支援教育における実験的で先導的な研究を大学附属学校の使命として実施することの二つの目的を果たすべく、令和3年度から4年間の文部科学省研究開発学校の指定を受けて以下に紹介する研究を構想し、取り組むこととしました。

令和3年度研究開発学校指定について

研究開発課題の設定

主として特別支援教育の教育課程に関する研究開発

小学校等と特別支援学校との学びの連続性の確保

知的障害者である児童生徒に対する小学校等における国語科を
基にした教育課程の編成、指導方法及び学習評価の在り方につ
いて研究する

これまでの本校の研究から

- ・平成26年度～平成28年度

文部科学省の「キャリア教育・就労支援等充実事業」を受託し、児童生徒のキャリア発達支援を促す学習活動や授業づくりに取り組む

- ・平成30年度～令和2年度

文部科学省の「特別支援教育に関する実践研究充実事業」を受託し、先の実践研究の知見を基に地域や人との関わりを重視した活動の中で、伝えあう喜びを育む授業づくりに取り組む

これまでの本校の研究から

地域の多様な人達との交流、共同・協働活動を通じて、他者の発信を受け止める、理解することや自分の思いや考えを表す、他者に伝えるなどの力の育成の重要性が明らかになる。



国語科で育てる基本的な「話す・聞く」「読む」「書く」力が基盤となる。



本校の児童生徒の教育課題と研究開発課題の統合

新学習指導要領

インクルーシブ教育システムの推進により、障害のある子供たちの学びの柔軟な選択を踏まえ、幼稚園、小・中・高等学校の教育課程の連続性が重視され、知的障害がある子供のための各教科等の目標や内容について、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき整理された。

研究仮設

小学校学習指導要領国語科の目標・内容の一部または全部と特別支援学校国語科の目標・内容を一本化した教育課程の編成、指導方法及び学習評価に特別支援教育の知見を生かした指導方法の工夫や教材開発を加えることで、小学校等と特別支援学校との間の学びの連続の可能性を示すことができると考える。

本校の児童生徒の教育課題と研究開発課題の統合

教育課程の特例

- ・小学部においては対象児童に対して小学校1年の国語の教育課程及び指導内容を適用する
- ・中学部においては対象生徒に対して小学校2年の国語の教育課程及び指導内容を適用する
- ・高等部においては対象生徒に対して小学校3年の国語の教育課程及び指導内容を適用する

なお、研究の進捗状況や生徒の実態により、小学校学習指導要領の教科国語の第4学年から第6学年の目標・内容の適用も考える

本校の児童生徒の教育課題と研究開発課題の統合

研究テーマ

**自立と社会参加のための国語力を育む教育課程の探究
～小学校等との「学びの連続性」の探究を通して～**

研究計画について

1年目<調査・準備・試行>

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
・企業、福祉事業所アンケート調査 ・年間指導計画の作成 ・学習指導要領の目標・内容の整理 ・各学部でつけたい国語力の提案 ・研究計画の見直し		・運営指導委員会の開催 ・アセスメント記録、言語に関する検査分析 ・教科書を用いた授業の試行 ・評価、アセスメント記録シートの作成		・企業、福祉事業所アンケート結果分析 ・単元、授業計画の作成と教材研究 ・学習指導要領の目標・内容の分析 ・教育講演会		・授業実践 ※研究授業（国語）	・成果報告書、実施報告書等作成 ・教育課程の検討 ・運営指導委員会の開催		・次年度の年間指導計画の作成 ・教育課程の検討	教育研究会	・運営指導委員会の開催

2年目<見直し・実践>

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
・年間指導計画の見直し ・各学部でつきたい国語力の再検討 ・課題、今年度の研究の方向性等確認		・授業実践① ・教育課程の検討 ・運営指導委員会開催		・単元、授業計画の作成と教材研究 ・教育講演会、情報収集	※研究授業 (国語、各教科等を合わせた指導)	・授業実践②	・研究紀要、実施報告書等作成 ・教育課程の検討 ・運営指導委員会の開催		・次年度の年間指導計画の作成 ・教育課程の検討 ・授業実践③	教育研究会	・運営指導委員会開催

3年目<見直し・実践・教育課程案の検討>

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
・年間指導計画の見直し ・各学部でつきたい国語力の再検討 ・課題、今年度の研究の方向性等確認		・授業実践① ・教育課程案の検討 ・運営指導委員会開催		・単元、授業計画の作成と教材研究 ・教育講演会、情報収集	※研究授業 (国語、各教科等を合わせた指導)	・授業実践②	・研究紀要、実施報告書等作成 ・教育課程の検討 ・運営指導委員会の開催		・次年度の年間指導計画の作成 ・教育課程案の検討 ・授業実践③	教育研究会	・運営指導委員会開催

4年目<教育課程の検証>

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
			・運営指導委員会の開催	・教育講演会	・授業実践 ・教育課程案試行	・教育課程案の評価、修正 (過去の授業実践との比較)	・運営指導委員会の開催 ・研究紀要、実施報告書等作成		教育研究会		・運営指導委員会の開催

小学部 令和3年度研究の構想



1.小学部で育成したい国語力

楽しい気持ちを表現したり伝えたりする力

段階ごとの目指す姿

- 1段階 身近な教師との関わりの中で、楽しい事や思いを表現する言葉に気付き、教師の話し掛けに応じたり自ら表現したりする姿
- 2段階 教師や友達との関わりの中で、楽しい事や思いを表現する言葉を知り、自分なりに表現したり伝えたりする姿
- 3段階 教師や友達との関わりの中で、楽しい事や思いを表現するいろいろな語句や表現を獲得し、自分の思いを伝えたり相手と楽しい気持ちを共有したりする姿

2.今年度の国語科の授業づくり

今年度、小学校国語科「読むこと」の特に、文学作品に焦点を当てて取り組んでいる
→『おおきなかぶ』『おむすびころりん』の実践

「おおきなかぶ」「おむすびころりん」の目標

【知・技】・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる⇒音読

・昔話の読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる

⇒伝統的な言語文化

【思・判・表】・場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる

⇒読むこと：構造と内容の把握(文学的な文章)

・教科書の工夫・音楽
・動作化 etc

7月に『おおきなかぶ』を実施（小学校の活動内容を意識した音読劇の取り組み）



しかし、児童の言語活動が活発に行われなかった。そこで・・・

小学校国語科の目標との連続性を意識した指導計画に基づく国語科の実践
＝特支Ⅰ段階→特支Ⅱ段階→特支Ⅲ段階→小学校Ⅰ年生と繋がっていく
⇒☆本※Ⅰの活用（実際に使用することと、他の教材選定の参考にするものの両方）
⇒カリキュラムマネジメント（教科別国語と合わせた指導などとの関連）

3. 今後の取組

今年度の取組の結果として

小学校国語科「おおきなかぶ」と「おむすびころりん」の目標・内容(音読、伝統的な言語文化、構造と内容の把握)の系統と考えられる☆本の単元や題材を整理した。

その結果に基づき、9月から単元ごとのつながりを意識した国語科の実践を行い、10月に「おじいさんとねずみのはなし」(「おむすびころりん」を構成し直した☆本の題材)で研究授業を行った。

今後の取組について

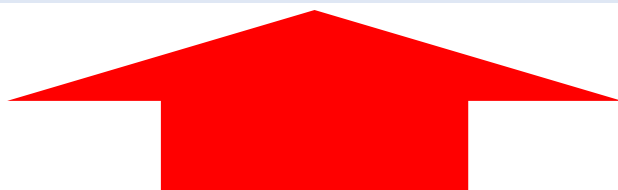
- ・ 小学校との連続性を意識した指導計画に基づく年間を通した国語科の実践
→ 今年度整理した☆本の内容を次年度年間指導計画に盛り込み、実践を重ねる
- ・ 国語力の評価に関する検討
→ 国語科の授業における評価及び学校生活全般における評価方法についての検討

中学部 令和3年度研究の構想



Ⅰ. 中学部で育成したい国語力

- ★ 相手の話を丁寧（読み）、内容を捉えて自分なりの言葉に置き換える力や行動に移す力
- ★ 自分の気持ちや考えをもち、言葉にして相手に伝える力



情緒力、論理的思考力、語彙力（基礎的な国語力）

- ★ 「読む」「聞く」を通して、関心を持って（自分のこととして）聞く。
必要な語彙・表現方法等を増やす。
情報を整理して（読み取って）行動する、自分の考えをもつ。
- ★ 「話す」「書く」を通して、学んだ語彙・表現方法を使って自分で表現する。
分かったことや感じたこと、自分の考えを（詳しく）伝える。

2. 今年度の国語科の授業づくり

アセスメント

【5～6月、8月】

比べて読もう「動物の赤ちゃん」【読】

気持ちを讀み取ろう「たぬきの糸車」
漢字プリント【読】

・小学校第1学年の教科書の単元を用いて授業を行い、教科書の題材を用いた際の生徒の反応や、小学校で学習した経験、記憶などを調べる。

・特別支援学校第1・2学年と特別支援学校中学部段階の目標・内容を比較し、類似点や相違点を整理。

・特別支援学校の中学部段階の目標・内容がどの程度まで達成できているかを確認。

・アセスメントや実践をもとに、授業で配慮すべき点や支援について考える。

実践

【7月、9～10月】

①順序に気をつけて読もう「たんぽぽのちえ」【読】

②物語を読んで想像しよう「スイミー」【読】

③物語の作者になろう「スイミーもうひとつの物語」【書】

●中学部第1段階、第2段階の生徒

・小学校第2学年の教科書を使用。

・小学校第1・2学年の目標と特別支援学校中学部段階の目標から、単元の目標を設定。

※小学校国語科の目標との連続性を考える

●その他の生徒 ※実践は②のみ

・原作の絵本を使用。

・特別支援学校小学部1～3段階の目標から、単元の目標を設定。

・☆本の活用

(指導上の留意点や支援方法などを授業に取り入れる)

3. 今後の取組

→授業整理会記録、学部研、研究に関するアンケート等を踏まえ、以下の内容について検討する。

- ・次年度以降の年間指導計画
- ・2年生相当の内容を実施する場合にはどのような点に考慮すべきか。教科書の内容そのままを使用した授業ができるのか。
- ・学習評価における評価規準（評価基準）の設定
- ・身に付けた国語力を活用する際に、どのように評価していくか。

高等部 令和3年度研究の構想



Ⅰ. 高等部で育成したい国語力

目標を達成するために育成したい国語力

- ・豊かな語彙力と表現方法を身に付け、自分自身の気持ちや考え、想像したことを適切な言葉で表す。
→表現方法:話す・書く
- ・話し手が伝えたいことの内容を適切に捉えることで、互いに納得・合意を図りながら物事を進める。
→相手の話を素直に聞く、正しく理解する。



学習内容(小学校第3学年及び第4学年)

知識及び技能		語彙(Ⅰ)エ、言葉遣い(Ⅰ)キ
思考力、判断力、表現力等	A	【話】話題の設定・情報の収集等ア、構成の検討・考えの形成イ 【聞】話題の設定・情報の収集ア、構造と内容の把握等エ
	B	考えの形成・記述ウ
	C	考えの形成ウ

項目として上がっていない指導事項を取り扱わないということではない。

2. 授業づくりの考え方

対象単元名	単元目標	評価規準例	対象単元名	単元目標	評価規準例
【小3光村図書】 「山小屋で三日間すごすなら」 【話すこと・聞くこと】 (3h)	・比較や分類の仕方を理解し使うことができる。(知(2)イ) ・目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思A(1)オ) ・目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりすることができる。(思A(1)ア)	・比較や分類の仕方を理解し使っている。(知(2)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりしている。(思・判・表A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(思A(1)オ) ・互いの意見の共通点や相違点に積極的に着目し、学習の見通しをもって、グループで話し合おうとしている。(主)	【小3光村図書】 「ポスターを読もう」 【読むこと】 (2h)	・比較や分類の仕方を理解し使うことができる。(知(2)イ) ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つことができる。(思C(1)オ)	・比較や分類の仕方を理解し使っている。(知(2)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持っている。(思C(1)オ) ・ポスターを読んで理解したことに基づいて、 <u>進んで感想や考えを持とうとし、学習課題に沿って、友達と伝え合おうとしている。(主)</u>



本実践/単元名	単元目標	評価規準
「たくさんのお客様に来ていただくために効果的なポスターは？」 (5h)	・比較・分類の仕方を理解し使うことができる。(知(2)イ) ・目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりすることができる。(思A(1)ア) ・目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思A(1)オ) ・言葉が持つよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学び)	・比較や分類の仕方を理解して使っている。(小3(2)イ) ・「話すこと、聞くこと」において、目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりしている。(思A(1)ア) ・「話すこと、聞くこと」において、目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(思A(1)オ) ・互いの意見の共通点や相違点に積極的に注目し、学習の見通しを持って、グループで話し合おうとしている。(主)

生徒の生活に密着した内容のまとまりとして指導計画を作成した。

3. 今後の取組

研究の成果と課題

小学校等との関連において 【充実を図る】	小学校学習指導要領に示された指導内容をばらばらに指導するのではなく、様々な指導内容を生活に結びつくまとまりとして指導計画を作成し、实际的・体験的活動を通して学習することは効果的であった。
評価方法について 【今後の課題】	特別支援教育においては生徒の持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行っており、それは指導の中でも「支援」「手だて」「指導上の留意点」として行われている。そのため小学校で行われている評価規準の設定方法をそのまま特別支援教育に適用すると、学習グループ全体に対する支援のみで「おおむね満足できる」状況と評価した生徒と、多くの個別の支援を行うことによって「おおむね満足できる」状況と評価した生徒とが、同じ評価になるということが生じた。これは、指導が生徒にとって最善のものとなっているかどうか（指導改善）を検討する視点としては不十分であり、小学校等との連続性を考えたときには評価方法として粗いと考えた。よって、どの程度の支援・手だてが行われた中で、目標の実現に至ったのかが明らかになる評価基準を設定し、それに基づいて評価する仕組みを構築していく必要がある。
指導形態について 【今後の課題】	教科別の指導が各教科等を合わせた指導と関連付けされ展開されることによって、生徒の学習効果をより高めることが期待される。よって、各教科等を合わせた指導においても国語で育成を目指す資質・能力を明確にした上で、効果的に実施していく仕組みを構築していく必要がある。

評価の観点について

1. 小学校等との学びの連続性について

- ・小学校と特別支援学校の学習指導要領国語科の国語の目標・内容を比較分析して相違点を整理

2. 自立と社会参加のための国語力について

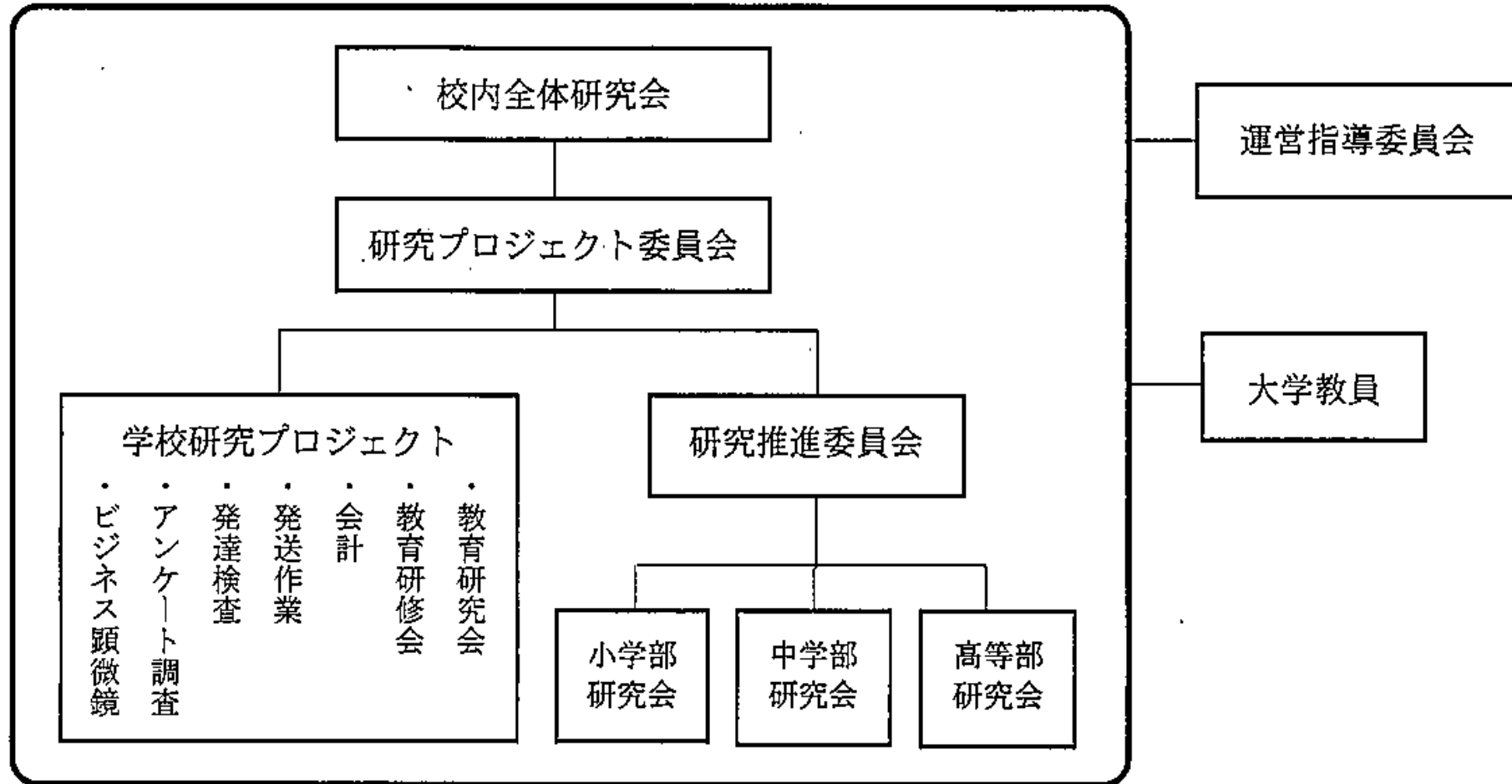
- ・学習評価についてはテストや成果物、ビデオ分析などのパフォーマンス評価、ビジネス顕微鏡※2で得られるデータを活用し総合的に評価

3. 教育課程の内容について

- ・国語科において、小学校における教科（国語）の目標・内容を基に評価
- ・教科学習の学びの活用や定着を図る観点から、他教科等の指導内容や授業時数の配当について検討

※2: ビジネス顕微鏡は株式会社日立製作所が開発した組織内コミュニケーション定量分析ツール、赤外線センサーと加速度センサーを搭載し、組織内の人と人とのつながりをネットワーク図として可視化したり人の活動の強弱を分析したりできる。

研究体制について



運営指導委員会について

委員

- 金沢大学教授
- 金沢大学准教授
- 金城大学教授
- 金沢星稜大学教授
- 金沢大学附属小学校主幹教諭
- 育友会長

計6名

開催計画

年3回実施

令和3年度 教育研究会（オンライン開催）

令和4年2月10日（木）

講演会講師

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官 **加藤 宏昭 氏**

「子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて

～連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備を目指して～」

プログラム

9：30	10：00	10：30	12：00	13：00	17：00
受付（入室）	全体会	講演会	休憩	分科会	閉会
日程説明 諸連絡	校長挨拶 研究概要説明	講演 90分 ※質疑応答は ありません		小学部 13:00-14:10 中学部 14:20-15:30 高等部 15:40-16:50	